

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月1日

彼らはかまわず、山の頂を目指して上って行った。主の契約の箱とモーセは宿営から離れなかった。山地に住むアマレク人とカナン人は山を下って彼らを撃ち、ホルマまで来て彼らを破った。－民数記14:44-45

カデシュ・バルネアに戻ってきた10名のスパイの報告を聞いて、イスラエル人は主に反抗し、カナンの地に入ることを拒否しました。すると彼らの決断に対して神の裁きがなされましたが、彼らは再度反逆し、今度は自分の力に頼って前進すると主張しました。彼らはモーセを無視し、また現在まで彼らの旅の行程で失われてしまった証しの箱をも無視しました。これは彼らの破滅でした。彼らは敵によって完全に補足されていたばかりでなく、この出来事の後38年間にわたり契約の箱の記録がまったく消失してしまったのです。何と言う打撃でしょう！私たちが自分の道をあえて行くのであれば、神の真実なる導きの証しを失ってしまうのです。私たちの頑迷な行動によって、私たちは導きを受けることのできる特権を自ら喪失してしまうのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月2日

彼らはこうして、主の箱を担いで町を回らせ、一周させた。-ヨシュア6:11

ここで筆者は契約の箱のみに言及しているのですが、それはあたかも信仰によって城壁の周りを行進した群集のことを無視しているかのように見えます。しかし言わずもがな、ここで最も重要なものは契約の箱だったのです。エリコの城壁は、単にイスラエルの人々はその周りを行進するだけでは、決して陥落しなかったのです。私たちもよくよく知っているはずですが、私たちの問題の城壁の周りを、自分自身で何千回も回ってみても、何も起きないのです。イスラエルの力は彼らの間に置かれた契約の箱によるのです。彼らはこれまで、神ご自身の真実の証しを担いでいたのです。彼らの勝利は、彼ら自身の努力によって敵に立ち向かうことによるのではなく、神がすでに成し遂げられた事実に基づいたものなのです。今日の私たちにとってその“契約の箱”とは、復活された神の御子ご自身です。その方を私たちの中心に置き、彼の復活を宣言しつつ前進しなさい。そうすれば神はあなたに立ち塞がる城壁をすべて崩して下さいます。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月3日

その後、わたしは、大群衆の大声のようなものが、天でこう言うのを聞いた。「ハレルヤ。救いと栄光と力とは、わたしたちの神のもの。」-黙示録19:1

黙示録におけるこの最初のハレルヤは、何度も何度も「大いなる」と形容された都市が崩壊する時に湧き上がるのです。なぜ天はバビロンの崩壊によってそのように高揚するのでしょうか。それはバビロンは空虚と虚像の霊から構成されるからです。イスラエルがカナン地に入ってから初めて犯した罪は、バビロンの装束をまとったことでした。アカンもバビロンの衣装を希求しました。それは見かけを良くするためでした。また初期の教会が犯した最初の罪も同様のものでした。それはアナニアとサツピラの罪であり、その実質を超えて自己犠牲の風を装って自分を良く見せかけることにより、人からの評価を勝ち取ろうとする試みでした。彼らもまた自分をよく見せたかったのです。今日、私たちも他人にある種の印象を与え、自分が評価され、尊敬されるような立場を得ようとする試みに、何と容易に陥るのでしょうか！これこそが淫婦バビロンの本質であり、それは神に対する大いなる冒瀆なのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月4日

このことが分かり、そのとおりに実行するなら、幸いである。－ヨハネ13:17

私は家に泥棒が入って被害に会ったあるひとりの日本人の老婦人クリスチャンを知っています。彼女はその泥棒が飢えていることを知り、単純にして、実際的な信仰によって、彼に料理を作ってあげたのです。そして最後に、彼に対して家の鍵を渡したのです。どの泥棒は彼女の行為によって自分を恥ずかしく思い、しかも神が彼に語りかけたのです。彼女の証しによって、彼は今キリストにある兄弟となりました。

多くのクリスチャンは教義を頭の中に詰め込むだけで、実際にはそれと矛盾する生き方をしているのです。たとえば、彼らはエペソ書1章から3章をよく知っていますが、4章から6章の具体的命令を無視しています。その命令とは、偽りを捨て去り、親切であり、赦しに富み、互いに服し合うように、あなたの妻を愛し、主人に従い、脅されても耐え、そして祈りなさい！矛盾する行為をするくらいならば、教義などは知らない方がましです。神はあなたに何かを命じていますか？では、自分自身を神ご自身に明け渡し、助けを受け、それを行いなさい！

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月5日

それで、兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入れると確信しています。…信頼しきって、真心から神に近づこうではありませんか。－ヘブル10:19以下

私が最初に神に近づいた時、それはただキリストの血潮によりました。そして今なおその新しい関係にとどまるのは常に血潮によるのです。私が救われたのはある原則により、またキリストとの関係を維持するのは別の原則によるではありません。あなたは多分、「そんなことは当然のこと、福音のイロハではないですか」と言われるでしょう。そのとおりです。しかし私たちが出会う多くの問題は、そのイロハから逸脱してしまうことが原因なのです。私たちは自分が成長し、もうそれは不要だと感じるのですが、しかし決してそうではありません。

なぜならそれが神に至る唯一の安全な道だからです。もちろん、尊い血潮が変質するようなことがあれば、私たちが神に近づく基礎は危うくされることでしょう。しかしキリストの血潮は今も変わることがなく、また決して永遠に変わることがないのです。神は血潮をご覧になり、満足されるのです。よって私たちは常に大胆に神に近づくことができます。

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月6日

キリストの御霊を持たない者は、キリストに属してません。－ローマ8:9

神があなたに聖霊を賜る理由は、御子が天に昇られたことのゆえであって、かつただそのことだけによるのです。では、すでに主が栄光を受けられたのであれば、信じるあなたが聖霊を受けないことがありますでしょうか？ある人たちはこのことで混乱しているのです。上海のある若い知人は、栄光化されたキリストと聖霊の傾注についての新しい理解を得て、家に帰り熱心に祈りました、「主よ、私は信じます。私はあなたの聖霊の力が欲しいです。主よ、あなたが栄光化されたことを見ました。ゆえに今私にあなたの霊を注いで下さい！」ここで彼はいったん止まり、自分自身で訂正しました、「ああ、まったく違いました、主よ！」と。そして再び祈り出したのです。「主イエスよ、私はあなたといのちの交わりに置かれました。御父はふたつのことを約束されました。あなたのための栄光と、私のための御霊です。あなたはすでに栄光を受けられました。そのゆえに私が御霊を受けられないことは、もはやありえないのです。主よ、この素晴らしい賜物の故に、ただあなたに感謝を捧げます！」

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月7日

それから、ヨセフは父ヤコブを連れて来て、ファラオの前に立たせた。ヤコブはファラオに祝福の言葉を述べた。-創世記47:7

二回以上もヤコブはパロを祝福したと述べられています。どうしてこのように年老いた足の不自由な難民が、その時代の世界の偉大なる覇者に祝福を与えることができたのでしょうか?それはヤコブにとっては、そのような野心は、はるか過去のものだったからです。彼自身の目にあっても、彼自身、何者でもなかったのです。

そうです、しかし、神が彼と共にいました! エジプトに入る前に、彼はそのことを確信したのです。彼よりもさらに偉大だったアブラハムはエジプトに下り、罪を犯しました。そこで、息子のヨセフはすでにエジプトにおりましたが、ヤコブはベールシェバで自分の父の神に対して供え物を捧げ、すべての決定を神の御手に委ね直しました。すると神聖なる再確認が与えられたのでした「わたしはあなたと共に行く」と。そこで彼は今やここにいるのです。すでに自分のために祝福を得んとする過去の生まれながらの強さは砕かれてしまいましたが、世界の覇者を祝福することのできる霊的な力を帯びていたのです。

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月8日

しかし、主はサムエルに言われた。「容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは彼を選ける。人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」
－1サムエル16:7

サウルは人目を引く容姿を持っていました。「民のだれよりも肩から上の分だけ背が高かった」のです。そこで当然のこととして、イスラエルは彼を高く評価しました。彼らは全員がサウルの頭部を見ることができたのです。しかしなんとしばしば、人の頭が神の意志の前に立ち塞がることでしょうか！ダビデはこのことを知っていたようです－神の心を行う男ダビデ、彼は何度も人間的な理屈を脇において、単純な信仰によって行動を起こしたのです。ゴリアテと対峙して(彼の頭はサウルよりもっと目立っていたのです)、彼は兜と手紙を投げ捨て、石投げだけを手にして出て行ったのです。それから放たれた狙いを定めた一石はこの巨人の額に食い込み、彼は倒れました。その日、ダビデはイスラエルの王として定められました。

今日、自分自身の頭で支配されているクリスチャンがおります。歴史的には、私たちが対峙するゴリアテはすでにカルバリで打ち倒されています。しかし霊的には依然として、私たちの内にサウルが生きているのです。しかし私たちは内側を見るべきではありません。サウルは私たちの敵ではないのです。彼の日々は限られています。私たちのまことの心の牧者ダビデに支配を任せるとき、割礼のないペリシテ人に対する私たちの態度は明らかとなるのです。ダビデが直面した相手は、私たちもまた一人ひとりが立ち向かうべき相手であり、そのとき敵は必ず退くのです。

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月9日

それゆえ、人は父母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。－マタイ19:5

エバはただひとりであり、かつ唯一です。彼女は完全にアダムのために創造されました。このことは教会の様々な型であると感じられる旧約聖書の他の女性たちの中でも、彼女をきわめて特異的にしてユニークな存在としました。彼女たちのそれぞれにおいて教会の贖いの各面が表現されています。ある女は新妻として描かれ(レベカ)、異邦人の中から選び出され(アセナテ)、荒野を旅し(チツポラ)、良き地で自分の嗣業を受け取り(アクサ)、贖いの親類に完全に信頼し(ルツ)、自分の主人のために戦いました(アビガイル)。しかし彼女たちはエバほどには明示的に描かれてはいないのです。なぜなら彼女たちはみな堕落を継承していますが、エバだけは罪が入り込む以前のすばらしい期間において、御子との結合によって神のすべての願いを成就する存在として示されていたからです。エバはアダムから生み出されました。そして彼の助け手として彼に戻されたのです。ひとりから二人が生じました。そしてその二人が再びひとつとされたのです。これこそが教会の奥義であり、彼女においてキリストからもたらされたすべてのことが再びキリストへと返されるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月10日

信仰によって、モーセは王の怒りを恐れず、エジプトを立ち去りました。目に見えない方を見ているようにして、耐え忍んでいたからです。－ヘブル11:27

ご自身の僕を準備されることにおいて、神の方法は徹底的です。モーセがエジプトからイスラエルを導き出すための資質を得る学びの過程を考えてください。彼の人生は川の中から引き上げられるところから開始され、そのことは彼の名モーセ(=引き上げられる)が示すとおり、常に彼の意識の中に置かれていたのです。このこと、すなわち彼の最初のエクソダス自体、死に対する勝利でした。次の経験は、彼自身の決断によってパロの宮殿を放棄することでした。これはもうひとつのエクソダスであり、これによってもはや世が彼を支配することはないのです。次の過程は視界不良な状況へともたらされ、そこで賜物のある彼は40年間と言う長い年月を人に知られることなく過ごしました。そのような経験の後に初めて、燃える芝を前にして、さらなるエクソダスの召命を受けたのです。今や、弱さと流刑の状態から、イエスラエルの解放者としての輝きと新しい力を得たのです。自己、世、そして死を処置されたと神が認知された人物のみを神はイエスラエルの解放の指導的役割を果たすために用いることができたのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月11日

わたしが天から降って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うためである。－ヨハネ6:38

私に対する神の御心は、私自身の気質に応じるべきものではありません。私たちが人の性質を知るとき、彼がしばしばどのような「導き」を得たと思いつくか、容易に推測することができます。なぜなら彼の生まれつきの傾向が、神の真の導きを巧妙に覆い隠してしまうからです。多くの場合、私たちの中で言われる「導き」とは、個人的なバイアスのかかったものでしかありません。臆病な兄弟は後ろの席に座るように「導かれる」でしょう。大胆な兄弟は前の席を取るように「導かれる」でしょう。それぞれが主によって導かれたと主張するでしょう。それは主でしょうか？それとも彼の気質が彼を支配しているだけなのでしょうか？神の純粋な導きとは私の気質が脇に置かれることなのです。私が真に御霊に満たされるときは、隣の人が、私の気質に基づいてその導きがいかなるものであるか、まったく見通すことができないほどであるべきなのです。私の生まれつきの傾向によって、神の御心を貶めることがありませんように！主イエスでさえ、その意志には何らの欠点もなかったにもかかわらず、ご自身を遣わされた父の意志を重んじるために、自分の意志を退けたのです。主がそうなさったのであれば、いわんや私はどうあるべきでしょうか！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月12日

あなたがたが召されたのはこのためです。というのは、キリストもあなたがたのために苦しみを受け、その足跡に続くようにと、模範を残されたからです。－1ペテロ2:21

私たちクリスチャンは、いわゆる靈的経験を自分自身のために追求することが何と多いことでしょうか！これは間違ったことです。聖書ではいかなる経験であれ、それを他の事柄から切り離して提示することは決してありません。神がその恵みにおいてなされたことは、すべて私たちをキリストの中に包含することを意図されています。頭なる方を取り扱われることにより、すべての肢体をも取り扱われたのです。したがっていかなる靈的経験であれ、それをキリストから離れて、単に自分自身だけで体験できると思うことは、まったく間違っています。神は私たちが何かを個人的に獲得することを意図されません。そして神は、そのような事があなたや私のうちに、何らかの効力を及ぼすことも望まれません。そもそもクリスチャンの経験とは、すべてキリストにあってのみ実際のものとなるのです。いわゆる「私たちの」経験とは、主の歴史と主の経験に入り込み、それらを追体験することなのです。枝々に何かの特性をもたらすのはブドウの木なのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月13日

モーセは民に答えた。「恐れてはならない。落ち着いて、今日、あなたたちのために行われる主の救いを見なさい。…」ー出エジプト14:13

山々が私たちの右と左にそびえ、敵が後ろに迫り、前には海が広がっていることは、まさに私たちの信仰が機会を得るために絶好の状況です。信仰にとってのひとつの大きな障害は必要(欠乏)がないことです。神があなたを必要(欠乏)をもって祝福されるならば、神はまた信仰をもって祝福されるのです。そして信仰はまさに絶望的な必要の中でこそ、具体的に機能するのです。信仰は山を動かす、と言われていました。それはアリ塚ではありません！聖書の中には主が軽い頭痛を癒された記録は見当たりません。主は不可能な症例を扱われたのです。問題は神が私たちに信仰を働かせる機会を下さるとき、あなたも私もそれを脇に置いてしまうことです。

あなたが自分自身で代わりの解決法を得るとすれば、信じることに、ほとんど意味がなくなるのです！信仰はまさに他に道がないときにこそ働くのです。イスラエルがしたように、海に向かって、道となれ、と大胆に祈りなさい。そして「神にできますか？」と言う不信仰な質問に対して、個人的な告白をもって大胆にこう言うのです。「もちろんおできになりますよ」

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月14日

それを食べるときは、腰帯を締め、靴を履き、杖を手にし、急いで食べる。これが主の過越である。－出エジプト12:11

流された血は神のためのものです。それは中にいる初子に見ることができない家の外側で注ぎ出されたのであり、その効果によって彼らは解放されたのです。そうです、血は神がご覧になるためのものであり、神はそれをご覧になって過ぎ越されることを約束されたのです。神の必要はすでに血によって満たされました。対して、私たちの必要はその祭りの食事によって満たされるのです。家の中ではその血が私たちを守ってくれた子羊の肉を食するのです。それによって私たちが満腹するとき、旅路を行く力を得ることができるのです。過ぎ越しの食事はエジプトに定住する人々のためのものではなく、またその犠牲の血は彼らの守りのためでもありません。それはただ神のために、また神と共に行動する意志表現をした人々のためのものでした。そしてそれはまた私たちのためのものでもあるのです。私たちのあらゆる必要は、私たちがキリストにもたらされることにより、キリストにあって満たされました。しかし覚えてください、私たちは神の意志の中で、常に前進する用意をしている必要があるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月15日

神のすばらしい言葉と来るべき世の力とを体験しながら-ヘブル6:5

神の国はすでに到来しており、またやがて到来します(マタイ6:10;12:28)。時系列的にはそれは将来のことですが、経験的には現在私たちが味わうことができます。神は私たちがそれを前味わいとして享受し、今ここで来るべき時代の力を体験することを願われるのです。かの日に宇宙的に実際となるべき事柄は、今ここで、教会がある程度実際のものとして経験すべきなのです。なぜならそれはすべて教会に与えられたものだからです。神の国の状況、たとえば、安息、永遠のいのち、永遠の契約、サタンの追放、神とその御子キリストの権威などを、単に知識として知ることには何の意味があるでしょうか。これらは将来の嗣業であるだけでなく、今ここで検証されるべき能力でもあるのです。味見とは少々口にするだけです。それは祝宴に対する準備です。私たちは神の国のよき物をまだ完全に味わうことはできないとは言え、それらを、今、味見することはできるのです。霊的な資源が必要となる場合には、今現在の備えだけでやり繰りしようとするものではありません。来るべき時代の力はすでに私たちのものなのですから。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月16日

真理を得よ、知恵も諭しも分別も手放すな。－箴言23:23

偽りは自分に値段をつけません。それらは安価であり、あらゆるところに転がっています。しかし真理はつねに払うべき代価があります。まず遜る必要という代価があります。なぜなら神が光をもたらす人は遜っている人だからです。私たちがもし遜りの代価を払う用意がないのであれば、私たちはそれを得ることはできません。次に忍耐の代価があります。性急な判断と忍耐を欠いた決断は、ただ神と神の業を待ち望む人々に与えられる神聖な光と何らの関わりもないからです。そして究極的には、従順と言う代価です。「もし神の御心を行うことを求めるのであれば、彼はそれを知るであろう」。絶対的な従順こそが神の御心と神の方法を知るために本質的なのです。私たちの信仰は安価なものでしょうか?何らの代価も払う必要も無い程度のものでしょうか?それとも神の真理の上であって、その真理に対する代価がどのように大きなものであるにしても、その真理を得るための用意があるのでしょうか?

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月17日

信じた私たちは安息に入る。－ヘブル4:3

安息は労働の後にきます。究極的に言えば、安息は労働が完全に満足な状態に至ったときにのみ味わうことができるのです。神が6日間の創造の業を追えて後に休まれたことは小さなことではありません。私たちはたずねることでしょう、どうして目的を持たれ、いのちに満ち溢れた神が安息するのでしょうか?創世記1章31節はその理由を告げています:「神は造られたすべての物を見ると、それははなはだしくよかった」と。神はご自身の心の喜びとなる何かを達成されたのです。神の御意志の喜びは成就し、目的は達成されました。安息されることにより、神はその成就を宣言されたのです。

今日、神は私たちを、キリストにある神の安息を分かち合うように召しておられます。もうひとつの業が達成されました。それは新しい創造です。神のよき御旨は成就し、これ以上の何かを付け加える必要はもはやないし、不可能なのです。私たちが自分のもがきをやめるとき、神の安息に入ることでき、キリストにあつてまったき満足を得ることできます。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月18日

そこにいた人の何人かが、憤慨して互いに言った『なぜ、こんなに香油を無駄遣いしたのか。－マルコ14:4』

無駄とは何でしょうか?無駄とは、他のすべてのことにおいて、必要以上のものを与えることです。もし1ドル必要な場合において2ドル出すとしたら、それは無駄です。50グラム必要な場合に1キログラムを出したならば、それは無駄です。ある仕事をなすのに3日必要な場合において5日とか1週間とかを費やしたとすれば、それは無駄です。無駄とはたいした事のないものに対して、それに値する以上のものを提供することです。またもしある人が自分が値しない以上のものを受け取ったとするならば、それは無駄です。12弟子たちですら彼女が注いだこの行為をやり過ぎだと考えたのです。ユダにとっては、彼はそれまでイエスを主と呼んだことがなかったのですが、イエスに注がれたものは無駄であり、それはちょうど世の評価においては神のために自分自身を注ぎ出すことが完全なる無駄とみなされるのと同様だったのです。しかし私たちの目が主イエスのまことの価値に目覚めるならば、主にとっては無駄になり得るものはないのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月19日

わたし、イエスは使いを遣わし、諸教会のために以上のことをあなたがたに証した。
わたしは、ダビデのひこばえ、その一族、輝く明けの明星である。－黙示録22:16

黙示録はイエス・キリストの啓示を与える書です。それはイエスご自身を啓示するためにカーテンを脇に寄せるのです。それは第一義的には、これから起きること、つまり反キリスト、ローマ帝国の復興、聖徒の携挙、千年期やサタンの最後の裁きなど、を明らかにすることではありません。私たちの病に対するヨハネの処方箋は、多くの封印やトランプや薬ビンでないのです。また本書は私たちの知的な興味を満たすために編まれたものでもありません。それはキリスト・イエスご自身を完全に啓示することにより、私たちの霊的な必要を満たすためのものであり、またその方を私たちが知るためのものです。なぜならキリストこそ私たちのすべての疑問に対する回答であるからです。まずキリストご自身についてはっきりと見てください。すると私たちが知るべき「これから起きること」についても理解することができるでしょう。彼こそは復活され、勝利を得られた王の王たるお方なのです。あらゆる事柄は彼が存在のあり方によってなされる結果であるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月20日

知らないのですか。あなたがたは、だれかに奴隷として従えば、その従っている人の奴隷となる。つまり、あなたがたは罪に仕える奴隷となって死に至るか、神に従順に仕える奴隷となって義に至るか、どちらかなのです。-ローマ6:16

ここで「奴隷」と訳されている単語は文字通りの家隷あるいは奴僕の意味です。僕と奴隷の区別は私たちにとって重要です。なぜならこの単語はローマ書6章の後半の半分において、ここではパウロは私たちの主に対する有用性を書いているのですが、何回も使われているからです。僕と奴隷の違いはいったい何でしょうか？僕は人に仕えるでしょうが、自身の所有権はその人に明け渡されません。彼は自分の主人を好きであれば仕え、好きでなければ、自分自身の好みに従って他の主人を探すことができます。しかし奴隷の場合はそうではありません。彼は人の僕であるばかりでなく、その人の所有物なのです。私たちはどのようにして主の奴隷となるのでしょうか？主の側においてはご自身のいのちの代価によって私を買い取られたのであり、私の側としては自らの意志によって完全に主に明け渡すことによります。この第二の文章を軽く見過ごしてはなりません。贖いを根拠として私は神の所有ですが、私が主にとって有用であるためには、私は自らの意志をもってその目的のために自分自身を主にお奉げする必要があるのです。主は私を決して強制されることはないからです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月21日

人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。－エペソ3:19

イエスが地上におられたとき、イエスご自身が神聖ないのちの器でありました。人々がイエスに触れるとき、彼らは神に触れたのです。イエスを見るとき、神を見たのです。イエスにあつて神の神性があふれるばかりに充満しておりました。それが御父の満足だったのです(コロサイ1:19;2:9)。

今日人々は何を見ているでしょうか？ 私たち信じる者はそのいのちを持っています。私たちはキリストの豊かさを十分に受けていると言われていました。では、人々が私たちに会おうとき、卓越したキリストの愛に出会うでしょうか？ 彼らが私たちに触れるとき、神の何かに触れることができるでしょうか？

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月22日

わたしたちは生きている間、絶えずイエスのために死にさらされています、死ぬはずのこの身にイエスの命が現れるために。-2コリント4:11

これは何を意味するのでしょうか？これは端的に言って、私たちは神に拠り頼むときのみ行動すべきことを意味しています。私は私自身にあってはまったく十全ではあり得ないのです。私は何かをなし得る力を受け継いでいるからといって、それに踏み出すことをすべきではないのです。アダムは禁断の実を摂ることにより、自身で行動し得る能力を受け継ぎました。しかしその行動する能力はサタンの手の中において役割を果たすことになってしまったのです。あなたが主を知ったとき、あなたのその能力は失われました。あなたは今、別の方のいのちによって生きているのであり、あらゆる事をその方から引き出すべきなのです。

おお、友人のみなさん、私たちはある程度、自分自身を知っていると思いますが、しかし多くの場合、自分自身について真に恐れを覚えることが欠如しているのです。私たちは神に対して丁寧なあり方で語るかもしれませんが、「主がそれを望まなければ、私はそれをいたしません」と。しかし実際は、私たちは自分自身でそれを十分になし得ることに自信があるのです！あまりにも多く場合、私たちは自分で決断し、行動し、神から離れて何かをなすようにしむけさせられるのです。私たちを通して現れるキリストはあまりにも小さなものです。なぜなら私たち自身があまりにもビッグになっているからです。神よ、私たちをお赦しください！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月23日

ああ、神の富と知恵と知識のなんと深いことか。だれが、神の定めを究め尽くし、神の道を理解し尽くせよう。－ローマ11:33

今までも今日も、神の言葉を解き明かしているメッセージのまま最中に、神の僕たちの心の真っ只中から、突如礼拝が爆発的に現れる経験をします。使徒パウロはこのような現われを招くのに熟達していました。ローマ1章では、人間の墮落をあばく流れの中で、創造主なる神への賛美を叫びます、「造り主こそ、永遠にほめたたえられるべき方です」と(25節)。そして個人的な「アーメン」を加えます。9章においては、イエスラエルの歴史的意義の講解において、それとほぼ同様の叫びをキリストに対して上げます、「キリストは、万物の上におられる、永遠にほめたたえられる神、アーメン」と。11章の最後では、同様の即興的叫びをします。異邦人に対する神の憐れみと彼らの反応を語りながら、彼は結論します、「神はすべての人を不従順の状態に閉じ込められましたが、それは、すべての人を憐れむためだったのです」(11:32)。そして論理的にこれは12:1へとつながります、「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます・・・」と。しかし再度パウロは立ち止まるので、その文脈にはギャップがあるのです。彼は自分の感情を抑えることができず、「すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。栄光が神に永遠にありますように、アーメン」と叫ぶのです。この種の中断は神にとって何らの妨げともならないのです！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月24日

天にいます神に、…要求に従って、毎日欠かさず与えなければならぬーエズラ6:9

私たちが真に神を愛するのであれば、私たちは自分自身の必要と働きの必要のために、霊的な重荷をひとりで担う必要があります。私たちは誰か人からの援助に密かに願ったりすべきではありません。私たちの信仰は神プラス人に対するものではなく、ただ神ご自身にのみ置かれるべきです。兄弟たちが愛を示すのであれば、神に感謝します。しかし、もし愛を示さないとしても、依然として神に感謝すべきです。なぜなら神の僕にとって、一方の目を神に置き、他方の目を人に置くことは恥すべきことであり、それはクリスチャンにとってふさわしいことではありません。神に対する信頼を告白しつつ、なお兄弟たちからの満たしを期待することは、神の名を貶めることとなります。信仰による私たちの歩みは透きとおるほどに実際のものであり、決していわゆる慈善行為に落ちるべきではないのです。そうです、あらゆる物質的な事柄については、私たちはあえて人から独立しているべきです。なぜならただ神のみを信じるためです。私たちはあらゆる他の希望を投げ捨てるべきです。なぜならただ神にある希望のうちに束縛されるためです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月25日

なぜなら、罪は、もはや、あなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にいるのです。－ローマ6:14

神の光が私の内に照らし込んで来たとき、私の最初の叫びは赦しを求めることでした。それは自分が神の前に諸々の罪を犯していることを知っていたからです。しかし一旦諸々の罪の赦しを得ると、今度は新しい発見をしました。すなわち、私自身が罪の性質を有していることです。内には諸々の罪を求める性向があり、罪の力は私にそれをさせようとしめます。その力が打ち勝つと私は諸々の罪を犯すのです。私は赦しを求め、赦しを受けるでしょう。しかし再び私は罪を犯してしまうのです。かくして罪を犯すこと、赦しを受けること、また罪を犯すこと、という悪循環にはまってしまうのです。私は神の赦しを得る祝福を大いに享受します。しかし、さらに何かを求める必要を覚えるのです。私は自分の行為に対する赦しを得て喜びます。しかし、私自身の性向から解放される必要を覚えるのです。ここで罪を犯す潜在的な根っこを打ち砕くキリストの十字架が必要なのです。キリストの血は私たちの諸々の罪を処理します。しかしキリストの死と復活の力こそが、私自身を処理する力を持つのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月26日

あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。－ガラテヤ3:28

私たち信者にとっては、キリストの十字架こそが中心です。それは神のみわざの中心である故に、いつのときも常に中心であるのです。私たちの心の中に、このことを明らかにしてくださる故に、神を賛美します。さらには、十字架は私たちの生活においても中心です。しかし私たちは次の事を覚える必要があります:すなわち十字架の働きは、個人の罪人に対しては、目的のための手段であって、目的自体ではないのです。十字架の神聖なる目的は、キリストにあるひとりの新しい人のためなのです。

救い、個人的聖化、勝利の人生、御霊に従う歩み、これらの贖いの尊い実は私たちが享受すべき事柄ですが、それらは神のために地上に散らされた無数の部品として、私たちに適用されるべきものではありません。それらの価値はそこにとどまるものではないのです。それぞれはキリストの御体の要素として、私たちのものとなるのです。アブラハムの子孫たちが無数の星のようであることは事実でしょう。しかしながら、神は私たちクリスチャンを人々として見るのではなく、ひとりの人として見られるのです。神聖なる御思いの目的は、多くの人々の群集の中に存するのではなく、天的なひとりの人のうちにこそ存在するのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月27日

約束して下さったのは真実な方なので、公に言い表した希望を揺るがぬよう
しっかり保ちましょう。－ヘブル10:23

私たちが神ご自身を告白すること以上に神をお喜ばせすることはありません。イエスはしばしば語りました、「わたしはある(I AM)」と。イエスは私たちが「あなたはある」と言う事を愛されるのです。私たちはこのことをあまりも僅かしかしないのです。事態が芳しくなく、混乱に満ちるとき、祈るではありません！「あなたは主です！」と告白するのです。今日、世が混乱に陥るとき、しっかりと立ち、イエスは主の主、王の王と宣言するのです。主は私たちが知っていることを語り出すことを愛されるのです。

そしてサタンは聖徒たちが積極的な事実の宣言をすることを恐れるのです。イエスの御名はあらゆる名前を超えるのです。その御名を宣言しなさい！御名を敵に向かって語り出しなさい。たとえ私たちの祈りが効を奏さないときでさえも、私たちの証の言葉は有効であることを知るでしょう。私たちは山に立ち向かって、「動いて除かれよ！」と語るのです。

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月28日

だから、言っておく。祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい。そうすれば、
そのとおりになる。－マルコ11:24

信仰とは神の事実を受け入れることです。このことを考えたことがありますか？真の信仰は常に過去に根拠を置きます。未来に関わることは希望であって、信仰ではありません。もちろん両者は密接な関係があることは確かですが、イエスのこれらの言葉において、あなたは確信させられるでしょう。すなわち、すでに願った事柄が得られたと信じるならば(もちろん、それは、イエスにあって、ですが)、「そのとおりになる」のです。何かを得られるかも知れないとか、得ることができるとか、得るであろう、というのはここで意味されている信仰ではありません。信仰とは、すでに得たと信じること、です。そのような信仰は「神はおできになる」とか、「神はなされるかもしれない」とか、「神はなさるだろう」とか、「神はなされるはずだ」とか言うことはありません。それは確信をこめて「既に得た」と証しすることです。クリスチャン生活とは、その当初の開始からそうであったように、神の神聖な事実への信仰によって段階的に前進するのです。

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月29日

私たちは、だれにも不正をしたことがなく、だれをもそこなったことがなく、だれからも利をむさぼったことはありません。－2コリント7:2

主のしもべは他人から利用されることはあったとしても、決して他人を利用してはなりません。神に信頼すると告白しつつ、貧困にあるかのように装い、自分の欠乏を洩らし、他人からのあわれみを受けるようなことは恥すべきことです。まことに神の栄光、そして神の働き人としての栄光ある地位を見る人は、他の人からは自主自立することができるのです。そうです、自主自立です、またそれは自由でもあります。しばし兄弟姉妹の顧みにあずかることはもちろん許されていることですが、寝泊りすること、有り余る食事、光熱・燃料・家の備品の利用など、たとえ新聞であったとしても、それらを勝手気ままに用いることは厳に慎むべきなのです。自分の益のために安易に与ることほど、私たちの容量の狭量さを証明してしまうことはありません。私は施しを求める哀れな物乞いでしょうか？それとも、生ける神のしもべでしょうか？

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月30日

するとすぐ、鶏が再び鳴いた。ペテロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」とイエスが言われた言葉を思い出して、いきなり泣きだした。－マルコ 14:72

私たちは自分をペテロと同じ者と考えております。いえ、おそらく、彼よりは幾分かマシであると思っているかもしれません。なぜなら、ペテロは誘惑を受けて、失敗したからです。確かにそうです。しかしながら、失敗を決してしないであろう多くの人々と比べ、ペテロは劣っていたのでしょうか？彼は主を否みました－しかし、彼は決して無感覚ではありませんでした。ペテロは主の言葉を思い起こしたのです。そしてその言葉に思いを馳せたとき、彼は泣きました。神の言葉がその心に迫ることのないクリスチャンは貧しいクリスチャンであり、その名にふさわしくありません。なぜなら神の言葉は私たちの心をきよめ、また新しくする神の道具だからです。私たちがこのことを覚え、御言葉にその業をなしていただくとき、私たちがたとえ失敗したとしても、私たちはその中に長くとどまり続けることではないのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(5月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

5月31日

知ってのとおり、あなたがたが・・・贖われたのは、金や銀のような朽ち果てるものには
よらず、きずや汚れのない小羊のようなキリストの尊い血によるのです。－1ペテロ1:18

罪は神にとって三重の問題を提示します。不従順によって入り込み、何よりもまず神と人の関係を引き裂きました。神は人間と交わりを持つことができなくなりました。なぜならその間に妨げとなるものが存在するようになったからです。そこで神はまず最初に宣言されました、「すべての人は罪の下にある」と(ローマ3:9)。そして第二に、神との交わりを阻害するようになった人の内の罪は、人の内で罪の意識を生じるようになりました。そこで人は自分の良心に目覚めると、救いを求めるようになりました、「私は罪を犯しました」と(ルカ15:18)。それだけではなく、罪はサタンに対して私たちの心を罪定める根拠を提供しました。そこで第三に、兄弟たちを、「あなたは罪を犯した」と訴える者、サタンの問題があるのです(黙示録12:10)。

そこで私たちを贖うために、また神のご計画に回復するために、主イエスはこれらの三つの問題、すなわち罪と、罪責感と、私たちに対するサタンの訴えに対して何らかの処置をする必要が生じたのです。すなわち多くの人々のために流された、主の尊い血潮のみが、これらの問題に対する唯一の完全なる解決策であり、神を満足させ、私たちの罪深さを覆い、あの強力な私たちを訴える者を狼狽させるに十分な効力を有するのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想